山中湖文学の森　三島由紀夫文学館

「潮騒」の60年

2013.7.2㊋▶2014.1.19㊐

徳富蘇峰館（三島由紀夫文学館隣り）にて開催

山中湖文学の森　三島由紀夫文学館

〒401-0502　山梨県南都留郡山中湖村平野 506-296　http：//www.mishimayukio.jp

入館料：大人５００円、高校・大学生３００円、小・中学生１００円　※10名様以上から団体料金（50円割引）　※徳富蘇峰館、三島由紀夫文学館共通チケット

開館時間：午前10時～午後４時30分（入館は午後４時まで）

休館日：月曜日（祝祭日の場合はその翌日）、12月29日～１月３日、資料点検日（不定期）、※4月28日～５月６日の間は月曜日も開館

主催：山中湖文学の森　三島由紀夫文学館・山中湖村教育委員会

協力：一般社団法人 鳥羽市観光協会

刊行から６０年
新治と初江にまた逢える

「潮騒」が刊行されてからおよそ60年。若い男女の純愛を描いた「潮騒」は、美しい日本語と文体によって表現され、今もなお読者を魅了しつづけています。

三島作品の中でも、読みやすく、ポピュラーな作品として人気の高い「潮騒」は、昭和29年（1954年）に書き下ろし小説として刊行されました。たちまちベストセラーとなり、その年の『第一回新潮社文学賞』を受賞、のちに映画化され、各国でも翻訳本が出版されるなど、大変話題となった作品です。小学生向きの図書にもなっており、現在でも青春文学の代表として、幅広い年齢層から人気があります。

物語が展開される歌島は、三重県鳥羽市の神島をモデルとしており、三島は二度、神島へ行き取材を行っています。古代ローマの古典「ダフニスとクロエー」を下敷きに、文明から隔絶した日本の島を舞台に描こうと考えた三島は数ある候補地の中から神島を選び、「潮騒」を執筆しました。

また、「潮騒」は、これまでに5回映画化されていて、そのすべてがモデルとなった神島で撮影されました。それまで、自分の小説が映画化されても、一度も撮影現場に行ったことのなかった三島が、映画「潮騒」（昭和29年、東宝）の撮影では、ロケ見物のためにわざわざ神島へ足を運んでいます。三島はその理由をこう記しています。「土地の人情の醇朴が忘れがたく、実はロケ見物を申し出たのも、もう一度、神島へ行ってみたかったからである。」

三島の生んだ純愛物語。「潮騒」執筆のきっかけは何なのか。物語の舞台となった神島とは。
原稿、取材ノートを初め、写真、ポスターなどでその軌跡を振り返ります。
「潮騒」の世界をお楽しみください。

〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野 506-296
TEL0555-20-2655 FAX0555-20-2656
http://www.mishimayukio.jp/

【交通のご案内】
路線バス ▶ 富士山駅（富士吉田）から 25 分、御殿場駅から 40 分
文学の森公園前バス停下車 徒歩 5 分
高速バス ▶ 中央高速バスで山中湖（旭日丘バスターミナル）下車 徒歩 15 分
マイカー等 ▶ 山中湖 I.C. から国道 138 号線を山中湖方面へ 4 km

【休館日】
月曜日（祝祭日の場合はその翌日）、12 月 29 日～1 月 3 日、資料点検日（不定期）
※4 月 28 日～5 月 6 日の間は月曜日も開館

徳富蘇峰館（三島由紀夫文学館隣り）にて開催

【開館時間】 午前 10 時～午後 4 時 30 分（入館は午後 4 時まで）

【入館料】

	一般	高校・大学生	小・中学生
個人	500	300	100
団体	450	250	50

※団体は 10 名様以上 ※三島由紀夫文学館、徳富蘇峰館 両館共通チケット

山中湖文学の森 三島由紀夫文学館